

# 長崎 もり通信

— NAGASAKI FOREST NEWS —

## 特集▼「山の日だよ! 轟峡に全員集合!!」

- コラム — 杣道 — Vol.2 「ひろしまのエノキ」
- ながさ木ふれあい広場 ～えぼしスポーツの里～
- 森のキセキ「ホルトノキ」
- センターからのお知らせ — 第2回技術研修会 —

048号

H29. 9月



## 山の日だよ！ 轟峡に全員集合！！

平成29年8月11日（金）、「山の日だよ！轟峡に全員集合！！」が諫早市「山の日」実行委員会主催のもと諫早市高来町の轟峡にて開催されました。このイベントは、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝するための祝日『山の日』」にちなみ、昨年からはじまりました。第2回目となる今年も、多くの家族連れが轟峡に集合し、夏の暑さを滝の水しぶきや川のせせらぎで吹き飛ばしていました。



当センターは、森林環境税のPRの一環として「森の工作～苔玉づくり～」を出展しました。植物の宝庫である轟峡を実際に散策しながら材料を集め、親子で苔玉づくりを楽しみました。参加者のみなさんは、色々な種類の苔を見つけ違いを発見したり、苔玉づくりに必要な水を汲みながら轟峡と触れ合いました。ここでの植物の葉や根の形に興味を持っていた子どもたちの姿は印象的でした。

このイベントは、苔玉を作成することだけにとどまらず、子どもたちが森を身近に感じ、自然を体感するための貴重な時間となりました。また、コンテストでは、他の参加者の作ったものを見てお互いを称えあう姿があり、轟峡の大自然の中で、子どもたちと温かい時間を過ごすことができました。自分で集めてきた材料で作った世界にひとつだけの苔玉は子どもたちにとって、この夏の楽しい思い出の1ページになったのではないのでしょうか。



<最優秀賞の作品>

## 『ひろしまのエノキ』

1人の作家が書いた二つの作品と、一つの木をご紹介します。



「ひろしまのエノキ」 長崎源之助 作／二俣英五郎  
絵童心社 刊

復興を成し遂げた広島で、すっかり顧みられなくなって、朽ち果てようとしていた被ばくエノキを、地元の小学生たちが救い、大人たちをも動かす物語です。



「汽笛」 長崎源之助 作／石倉欣二 絵 ポプラ社 刊

1人の復員兵が、傷ついた体を癒すために送られた大村海軍病院。そこで出会った、被爆した子どもたちとの交流と別れ。

童話作家、長崎源之助の原点であり、絶筆となった作品です。

「ひろしまのエノキ」に描かれたエノキの2世が、広島の子どもたちによって、20数年前に長崎市立山里中学校に植樹され、校舎を超える高さに育っています。その木から種を採って育てた3世が、「汽笛」の舞台となった現国立病院機構長崎医療センターに、2015年に植樹されたほか、長崎市内12の小中学校に植えられています。県外では、福岡県八女市矢部村、神奈川県の小中学校（源之助の母校など）、長野県のC・W・ニコル（作品の英訳をしていただいた）さんの「アフアンの森」などに植えられています。（H29年8月23日筆）

## ながさ木ふれあい広場 ～えぼしスポーツの里～

平成29年8月5日（土）佐世保市烏帽子スポーツの里で、「ながさ木ふれあい広場 ― 木工と自転車を楽しもう！」が開催されました。

当日は天気にも恵まれ、開場前から行列ができるほどの賑わいで、参加者は400名以上。当日イベントは、長崎県の木材を多くの方に使っていただくこと、また、木材の良さを伝えることを目的にしており、長崎県地域材供給倍増協議会と日本競輪選手会長崎支部による初めての共催行事となりました。林業のプロと競輪のプロが協力するという、これまでとは一風変わった催しです。競輪選手会は、自転車を漕いで作るかき氷の提供や、子どもたちと選手での丸太切り競争などをおこないました。

競輪選手会の阪本支部長は、「林業との関わりを通じ、今後もCSR活動として森林保全活動に参加していきたい」と、抱負を語りました。



# 森のキセキ ……ホルトノキ…

軌

跡

平成29年度第1回技術研修会は「偏心したあばれ木の伐採と搬出」をテーマに大村市内で開催しました。研修会では、材を利用するため、大きく育った根回り径50cm以上のホルトノキを伐倒しました。

このホルトノキは、本州の暖地や四国、九州、沖縄などに分布していますが、私達が普通に目にするのは、街路樹としてのホルトノキでしょう。この木は、バス通りの排気ガスで樹勢が衰えることもなく、剪定にもかなり強いようです。

ホルトノキとは、ポルトガルノキのことです。江戸時代にポルトガル油（オリーブ由）が取れる木と誤認されたことが、名前の由来となりました。見かけはヤマモモにも似ていますが、紅葉が目立つので、見分けるのは容易です。ホルトノキは、初夏に古い葉が紅葉するのです。



## センターからのお知らせ

### 第2回 技術研修会「安全で効率的な刈払い作業」開催のお知らせ

平成29年10月23日（月）センターでは、第2回技術研修会「安全で効率的な刈払い作業」をテーマに、雲仙市で活動されている奥雲仙の自然を守る会さんのフィールドをお借りして開催します。

刈払い機は、森林ボランティア活動の道具の中でも、使用頻度が高い機材です。下草などを効率的に刈り取ることができますが、使い方や作業方法を間違えると大変危険な機材となります。何人かで作業する場合には、互いに距離をあけるなどの安全対策は欠かせません。

内容は基本的な刈払い機の取り扱い方法、作業手順、メンテナンスなど。安全な作業を再確認する意味においても、皆様のご参加をお待ちしております。登録団体の皆様には案内を送付しております。

登録団体の皆様へ 9月分の活動報告は、10月10日までにご提出ください。

本誌は間伐材利用促進のため、間伐紙を使用しています。